

飛騨高山における鉄道利用観光客の行動特性

福井工業大学大学院 学生員 ○吉田 貴利
 いであ株式会社 正会員 片柳 澄明
 福井工業大学 正会員 和田 章仁

1. はじめに

伝統的建造物群保存地区を有している歴史都市には、多くの観光客が国内外から訪れる。そこで、高山市を対象として、公共交通機関で来訪している観光客に着目し、公共交通機関利用観光客の行動特性を把握することとした。

本研究では、高山市内に公共交通機関で来訪する観光客を対象にアンケート調査を実施した。これによって、公共交通機関を利用する理由、公共交通機関で来訪した観光客の高山での行動、公共交通機関に対する考え方、等の公共交通機関を利用した観光客の行動特性を把握する。これにより、今後の公共交通及び観光交通の在り方の検討につながると考える。

2. 調査概要

調査は、岐阜県高山市のJR高山駅前広場及び隣接する高速バスターミナルにおいて、平成21年9月18日(金)、19日(土)の2日間行った。調査方法としては、JR及び高速バス等で来訪している観光客を対象にアンケート調査票を手渡し配布し、回収は郵送とした。400票配布して211票回収し、有効回収票数は191票(有効回収率:47.8%)であった。その内、JR利用票数は158票(82.7%)である。

アンケートの内容は、個人属性、旅行形態、及び公共交通手段を選択した理由などである。

3. 調査結果

(1) 回答者の年齢別構成

観光客の交通機関別、年齢別に示したものが表-1である。また高齢者を更に詳しく前期高齢者と後期高齢者に分割した。JRのみの利用者は、全ての年齢層で高い割合を占めている。

(2) 観光客の居住地別比較

平成21年の観光客の居住地別比較を示したものが図-1である。中国・四国を除いて、高山市から遠くなるほどJR関連の割合が高くなっている。特に、関東・甲信越から来訪している割合が高くなっている。

表-1 JR利用回答者の年齢別構成

	JRのみ	JRと高速バス	JRとその他	計
30歳未満	20 (66.6%)	5 (16.7%)	5 (16.7%)	30 (100%)
30代	19 (70.4%)	1 (3.7%)	7 (25.9%)	27 (100%)
40代	13 (59.1%)	3 (13.6%)	6 (27.3%)	22 (100%)
50代	19 (61.3%)	4 (12.9%)	8 (25.8%)	31 (100%)
60~64歳	12 (66.7%)	2 (11.1%)	4 (22.2%)	18 (100%)
65~74歳	15 (71.5%)	4 (19.0%)	2 (9.5%)	21 (100%)
75歳以上	5 (62.5%)	0 (0%)	3 (37.5%)	8 (100%)
計	103 (65.6%)	19 (12.1%)	35 (22.3%)	157 (100%)

(注) 不明を除いて集計

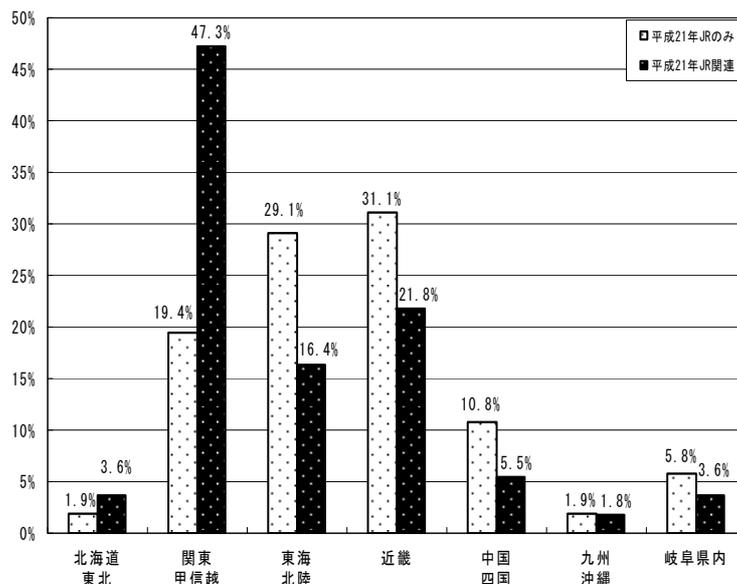


図-1 観光客の居住地別比較

キーワード 観光, 公共交通機関

連絡先 〒910-8505 福井市学園3丁目6-1 福井工業大学建設工学科和田研究室内 TEL: 0776-29-2620 (代)

(内 2842)

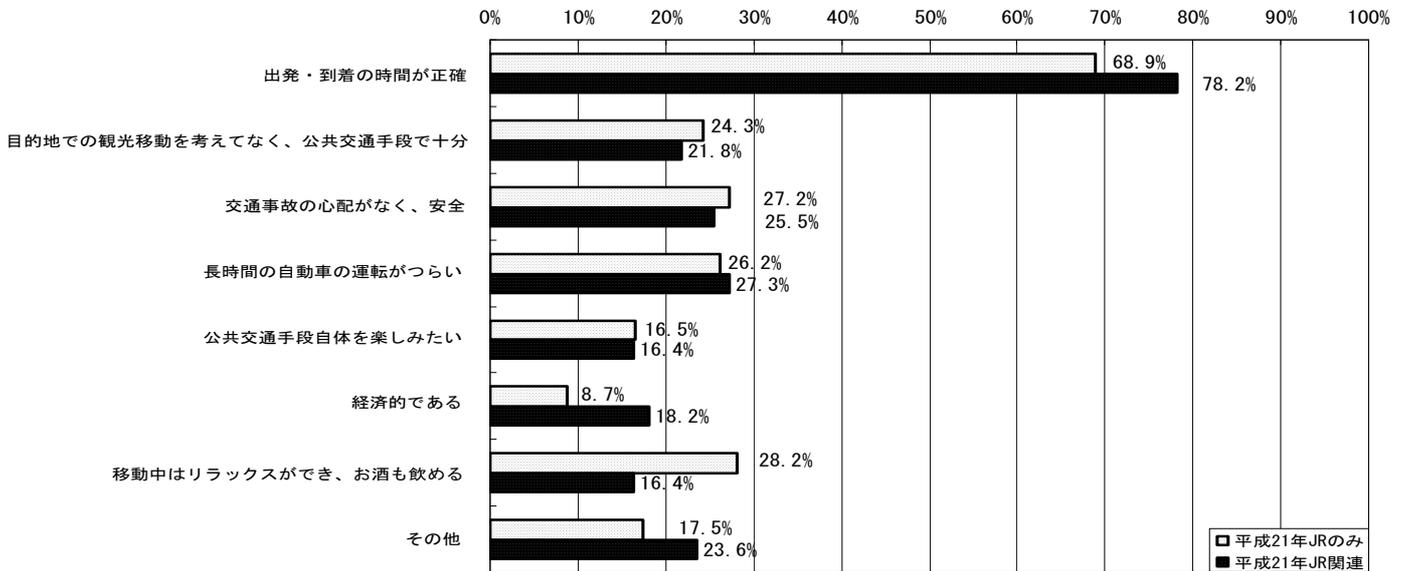


図-2 JR利用者の選択理由

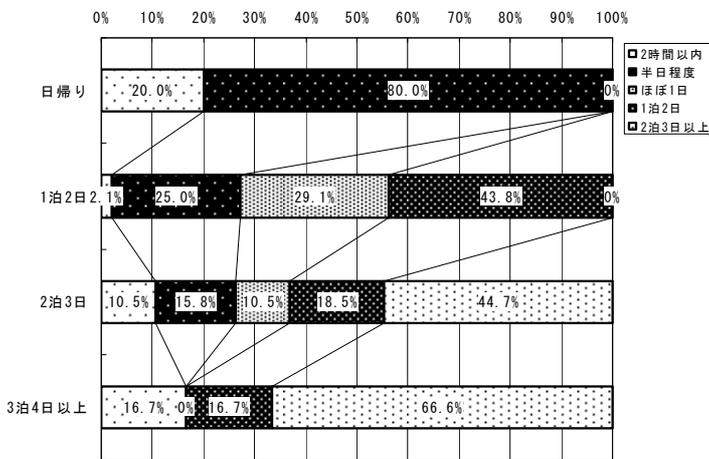


図-3 JRのみの全日程からみた高山の滞在時間

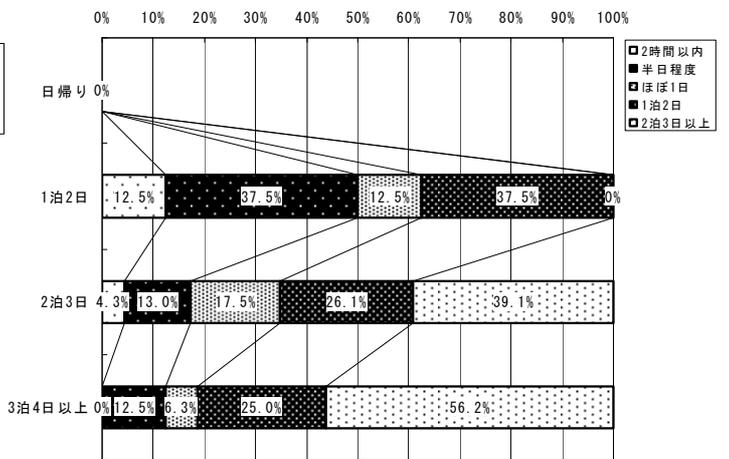


図-4 JR関連の全日程からみた高山の滞在時間

(3) JR利用者の選択理由

JRを選択した理由を比較したものが図-2である。『出発・到着の時刻が正確』の項目の割合が高くなっている。大きく違った項目は『経済的である』と『移動中はリラックスができ、お酒も飲める』である。特に、『経済的である』の項目は、観光客が自由に交通手段を選択できるためと考えられる。

(4) 全日程からみた高山滞在時間

JRのみ利用者とJR関連利用者の全日程からみた高山の滞在時間を示したものが図-3、図-4である。大きく異なるのは、全日程が日帰りの観光客である。JRのみ利用者は、電車の時間が決まっているために日帰り観光客がいるが、JR関連利用者は、時間に縛られないために日帰り観光客は皆無である。しかし、JR関連利用者は自由に交通手段を選択でき観光することができるために、高山での滞在時間が短い傾向がみられる。

4. 調査結果の分析

高山市への公共交通機関で訪れた観光客を対象とした観光交通に関するアンケート調査の結果、次のようなことが分かった。

- ① JRのみ利用者は、東海・北陸、近畿の割合が、JR関連利用者は関東・甲信越の割合が高い。
- ② JRを利用している1番の理由は、『出発・到着の時刻が正確』である。また、大きく違った項目は『経済的である』と『移動中はリラックスができ、お酒も飲める』である。
- ③ JRのみ利用者とJR関連利用者における高山での滞在時間は、JRのみ利用者は滞在時間が長くなる一方、JR関連利用者では、逆に短くなっている。

以上のことから、公共交通機関を利用して来訪する観光客の行動特性を把握することができた。これを踏まえ、今後は公共交通機関の利用促進を高める具体的な方策を検討する必要があると考えられる。